



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2011 : 年次記録 : 未来の「いのち」のためにひとり人が「持続可能な社会」を再考する
Issue Date	2017-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65264
Type	report
File Information	chapter-3.pdf,



3. 実施報告

北海道大学 サステナビリティ・ウィーク 2011 | 実 | 施 | 報 | 告 |



未来の「いのち」のために
ひとり一人が
「持続可能な社会」を再考する



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



サステナビリティ・ウィーク2011



世界に開かれた交流プラットフォームへ

世界中から研究者、学生、市民が

最新の研究成果と活動報告をたずさえて集まり、

すべてのいのちが大切に営まれるよう

「持続可能な社会」を再考しました。



DATA

第5回 サステナビリティ・ウィーク

2011.10.24 ~ 11.6

企画数 **47** 企画

期間中 **36** 企画 ポスト企画 **2** 企画

プレ企画 **9** 企画 うち、学生企画 8 企画

サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト

参加数 **92** チーム (105名)
 [学部生 9名
 修士 46名
 博士 50名
 (学部・大学院数: 13)]

審査員数 166名 (学生89人、教員77人)

Webサイト訪問者数 **39,116** 人

期間: 2011.4.4 ~ 11.30

参加のべ数 1ヶ月間のアーカイブ視聴者数

9,895 人 **6,288** 人

(うち、海外から260人)

(11/29時点)

大学間交流協定とのジョイント企画

..... **7** 企画 **7** 大学

韓国
ソウル大学校、
公州大学校

フィンランド
オウル大学、ヘルシンキ大学、
ラップランド大学

ネパール
トリブバン大学

イタリア
トリノ工科大学

大学間交流協定校からの参加数

..... **51** 名 (12ヶ国24機関)

- 中国 ——— 北京、北京師範、香港中文
- インドネシア ——— バランカラヤ、ガジャマダ
- フィリピン ——— デラサル
- 韓国 ——— 高麗
- ロシア ——— サハリン国立、ロシア科学アカデミー極東支部
- スリランカ ——— ペラデニア
- スイス ——— スイス連邦工科、ジュネーブ
- タイ ——— マヒドーン、カセサート
- 米国 ——— ポートランド州立、オレゴン、テキサス

東日本大震災の経験を踏まえ、
自然災害への対応やエネルギー政策など、
社会のあり方を考え直す必要があると
実感しました。

参加者の声

(アンケートより抜粋)

持続可能な社会に向けて、研究部門の
分野としては今後、医学は医学だけ、
工学は工学だけ、という教育方針では
限界を感じている。そういった意味で
北大は分野間の連携が進んでいると
思いました。今後も期待します。

毎年充実していく
サステナビリティ・ウィークの
将来に大きく期待しています。

サステナビリティを
軸に国際的な協力ネットワークを
作る上でとても良い機会でした。

専門家と市民とが交流する大事な
機会ですので今後も続けてほしいと思います。

LIVING IN RISK

LIFE

リスクの中で生き抜く

自然災害と人的災害が多発する

この世界で生きるための最善の方策を、

予防と対応の両面から考えます。



6 企画

健康を創る最先端技術と健康マネジメント

10月16日(日)

2011年4月に保健科学研究院に新しく健康科学分野が設立されたことを記念し、市民公開セミナーを開催しました。先端的な医療技術を活用して健康を支える仕組みを作ろうと励む研究者が、60人を超える参加者に対し、脳活動を計測する技術を用いて心の健康を把握する研究や、インターネットを活用した遠隔健康相談といった取り組みを紹介しました。



保健科学研究院 千葉仁志教授の講演

ジョイント公開講演会：持続可能な都市システムの構築をめざして

10月31日(月)



工学院 北方園
環境政策工学部門長
萩原亨教授の挨拶

全国各地から
集まった参加者



豊かで安全に暮らせる都市インフラシステムを実現するため、研究者、技術者、政策関係者が集まり最新の情報を交換する機会を、北海道大学と東京大学の研究グループが共同で提供しました。180人以上の参加者が、東日本大震災後の地震防災のあり方や、水資源の有効活用など、持続可能な都市システムについて議論をしました。

環境・エネルギーシンポジウム — 震災復興、自然エネルギー、北海道の力 —

11月3日(木)

東日本大震災ならびにそれに伴う原子力発電所の事故により、エネルギーと環境の政策に大きな転換が迫られる中、北海道大学の教員グループと環境省が協力して議論の機会を設けたところ、再生可能エネルギーのポテンシャルが大きい北海道地域の今後のあり方を考えようと、住民、NPO、企業、政策の関係者260人以上が集まりました。



経済学研究科吉田文和教授の司会による
パネルディスカッション

オープニングセレモニー

10月24日(月)

北海道大学 佐伯浩総長の東日本大震災被災者へのお見舞いの言葉から、サステナビリティ・ウィーク2011が始まりました。自然の猛威と常に隣り合わせで生きていくための社会づくりにおいて、高等教育機関がしっかりと役割を果たしていく必要があるとの認識を、インターネットを通じて全国に配信しました。



正門に掲げられたバナー



北海道大学 佐伯浩 総長



インターネット生中継の画面

GiFT



サステナビリティ・ウィーク実行委員長 本堂武夫理事の挨拶

北海道大学サステナビリティ・ウィーク 201

QUALITY OF LIFE



すこやかに 人間らしく生きる

ひとり一人が身体的、精神的、社会的に良好な状態
(Well-being) で質の高い生活 (Quality of Life) を
送ることのできるコミュニティをつくります。

10月30日(日)

世界の人々が共通に抱える課題を解決するため、インターネットを通じ最新の研究成果を共有するフォーラム『GIFT: Global Issues Forum for Tomorrow』が誕生しました。将来を担う全国の大学生や高校生に向け、北海道大学の若手研究者12人が、世界の現状と将来の展望を熱く語り、質問をツイッターで受け付けました。ひとり15分間の講演アーカイブには英語キャプションがつけられ、世界中からいつでも視聴できるようになっています。

アーカイブ：
<http://www.sustain.hokudai.ac.jp/GIFT/archive.php>

サステナブルキャンパス国際シンポジウム



北海道大学札幌キャンパス(黄色枠内)

北海道大学は、サステナブル・キャンパス推進本部を設置し、昼間の人口が2万人を超える札幌キャンパスを、持続可能な社会のモデルにしようと努めています。そこで、同じ志を持ち先進的な取り組みをしている米国の4大学(ポートランド州立大学、オレゴン大学、スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校)と日本の4大学(工学院大学、千葉大学、名古屋大学、九州大学)を招きました。施設環境といったハードと、教育カリキュラムや学生の諸活動といったソフトの両面から最新事例を共有し、今後の課題への対応策について議論しました。2012年は欧州の大学を招きディスカッションをする予定です。



日本と米国のサステナブル

12企画

国際シンポジウム：現代社会の 呪縛構造 — 社会環境・生活習慣に潜む病根 —

10月26日(水)

協定校である北京大学とソウル大学から研究者を招へいし、日中韓の社会環境と生活習慣の違いがどのような健康課題を生んでいるのかについて、70人以上の研究者と共に議論をしました。生活習慣病、体力低下、ストレスによる自殺などが取り上げられ、今後も東アジア3ヶ国で情報交換が必要であるとの意識を共有しました。



パネルディスカッションの様子

国際シンポジウム：アフリカ・ サブサハラにおける衛生問題に対する挑戦

10月28日(金)



L. SEDOGO大臣による挨拶

水に起因する病気を減らそうと、研究者、JICA(国際協力機構)関係者、大学院生など123人が世界中から集まり、ブルキナファソ国農業水利省大臣Laurent SEDOGO博士の臨席を賜る中、「尿の処理と利用」「水処理」「政策」「コンポスト化とその利用」について研究発表をしました。この成果をもとに、ブルキナファソでパイロット実験を開始する予定です。

フォーラム： 健康な高齢社会と持続可能な発展

11月4日(金)

医学研究科と工学院が協働で集中講義「高齢社会と持続可能な発展」を行い、北海道大学とトリノ工科大学(イタリア)の大学院生が受講しました。最終日には、市民も参加できるフォーラムを開催し、イタリア、韓国、スイス、スリランカ、タイ、日本の医学、人口学、社会学、福祉工学の研究者



充実したフォーラム後の各国研究者による記念撮影

が、健康な高齢社会の構築をテーマに各国の現状と将来展望を報告しました。308人が集まった会場から多くの質問があり、活発な意見交換が行われました。

東日本大震災と原子力発電所事故を受け、今年のテーマは「再考」。リスク管理、健康、エネルギー、自然との調和、教育といった同時に、地球温暖化、高齢社会、社会格差といった世界の継続的な課題についても、これまでの歩みを振り返り、次への一歩が

HARMONY WITH NATURE



調和を見いだす

自然の恩恵を意識しつつ、
環境を損なわずに暮らす
道を模索します。

15 企画

10月22日(土)

プレゼン・ディベート大会

15の学生チームが知力を尽くして「札幌市の望ましい交通デザイン」を提案し、対戦チームとのディベート(議論)に臨みました。8時間の熱戦の末、工学研究院、獣医学研究科、法学部の合同チームが優勝しました。ユニークな提案や鋭い質疑に、120人を超える参加者は大いに沸き返りました。



相手の提案の不備を巧みにつき観客に持論をアピール

アムール・オホーツク コンソーシアム国際会合

11月5日(土)・6日(日)



日本語、中国語、ロシア語の同時通訳を介した
質疑応答の様子

アムール川流域とオホーツク海の環境保全と持続可能な発展を実現するため、日本・中国・ロシア・モンゴルの研究成果を共有しようと、市民ならびに大学、研究機関、行政機関からのべ220人を超える参加者が集まりました。2012年には4カ国共同によるアムール川の観測航行を行い、2013年には第3回の会合をロシアで開催する予定です。

ワークショップ： アジアの陸域システムの脆弱性、回復力、持続性

11月5日(土)

全球陸域プロジェクト(GLP)を支えている北海道大学の研究者を中心に、協定校であるネパール・トリブバン大学の学長と研究者を迎え、国内外の50人を超える参加者と共に、ネパール、中国、日本における土地の利用や被覆変化の研究について成果を共有しました。これを礎にトリブバン大学と北海道大学は、2012年秋に、山岳環境の研究集会をカトマンズで共催する予定です。



地球環境科学研究所 渡邊倣二教授の報告

10月26日(水)

北海道 - フィンランド デイズ



ヤリ・グスタフソン
駐日フィンランド大使を
お迎えした満員の会場



ヘイッキ・マキパー
フィンランドセンター
所長の講演

オープニング・セッション

10月28日(金)

フィンランドの民間財団は、フィンランドと日本の両国間における科学・学術・芸術・文化の交流をより活発にするため、2011年春に北海道大学のキャンパス内に「フィンランドセンター北海道事務所」を開設しました。これを記念し、当事務所と北海道大学が協力して6日間の「北海道-フィンランド デイズ」を開催。オープニング・セッションには、ヤリ・グスタフソン駐日フィンランド大使をはじめ、オウル大学、ラップランド大学、ヘルシンキ大学などの代表が喜びと今後の協力への期待をお話くださいました。

北方圏の環境研究所に関するシンポジウム

10月31日(月)

北海道とフィンランドの研究者は「G8北海道洞爺湖サミット」が開催された2008年から継続的に会合を持ち、地球温暖化が北方圏の環境に及ぼす影響について議論を重ねてきました。今回は、これまでの共同研究の成果発表に加え、これからの共同研究テーマや協力の仕方について具体的な提案がありました。

課題がクローズアップされました。
議論されました。

※ウェブサイトではすべての行事報告をご覧いただけます。<http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/2011/>

LEARNING FOR FUTURE



未来への学び

叡智(えいち)や課題を分かち合い
共感することを通じて、
新たな未来を切り開く心、ちから、
仲間を育みます。

14 企画

〈学生企画〉

10月24日(月)～11月6日(日)

ペロタクシーDEおしゃべり&ECO 2011

北海道グリーン購入ネットワークのご協力をいただき、環境科学院の学生が環境配慮型の乗り物「ペロタクシー」を札幌キャンパス内で無料運行したところ、2週間で918人が利用しました。乗車した人は、自ら取り組むエコ活動などをシールに書き、車体に貼っていきました。



乗車数が増えるにつれ
紅葉していくペロタクシー



留学希望者向けセミナー： SD on Campus

10月31日(月)

協定校である中国の北京師範大学、フィリピンのデラサル大学、韓国の高麗大学、タイのマヒドン大学、そしてスイス連邦工科大学との教育交流をより活発にしようと、北海道大学は5大学から代表者を招きました。短期留学を希望する46人の学生と彼らをサポートする教職員に向け各大学は、持続可能な発展(SD)のためにどの



学生による質問



質問に答える各大学の代表

ような教育を提供しているか説明をし、参加者を魅了しました。

サステナビリティ 学生研究ポスターコンテスト

10月25日(火)～11月7日(月)

北海道大学の大学院生と学部生、計105人(92チーム)が、自らの研究と学びを「持続可能な社会づくりへの貢献」という観点で見つめ直し、ポスターと口頭説明



複数の審査員に対し
説明をする学生

受賞候補者と受賞者による
記念撮影



による発表を行いました。166人の教員と学生が審査をし、優秀な6つの発表に対し「北海道大学サステナビリティ研究ポスター賞」が授与されました。



講演者ならびにフィンランドセンター北海道事務所と
北海道大学アイヌ先住民族センターのスタッフ

国際シンポジウム 「北方のツーリズムと景観」

11月1日(火)

北海道とフィンランドのいずれも北方圏に位置し先住民族が住んでいます。地域固有の景観、歴史そして文化を大切に活かした社会が実現するよう、大学がこれから取り組むべき共通の課題を認識する機会となりました。

国際シンポジウム 「先住民族と教育」

11月2日(水)

先住民族が培ってきた知識や言語の伝承について、小学校やFMラジオの取り組みなど、北海道とフィンランドそしてノルウェーの事例と研究成果が共有されました。そして、言語セミナーなどの共同事業や学生交流プログラムが新しく提案されました。

参加企画を募集しています

北海道大学と共にサステナビリティ・ウィークを形づくってくださる協力機関を募っています。関心をお持ちの学術機関や研究機関は、事務局へご一報ください。

〈協力の例〉

- 研究集会の共同開催
- 市民向けの公開講座の共同開催
- サステナビリティ・ウィークの海外開催
- 学生や教職員の相互派遣 など

サステナビリティ・ウィーク事務局
北海道大学国際本部内
office1@sustain.hokudai.ac.jp

参加企画一覧

日 程	行 事 名	主 催	共 催
9/25(日)	日中テレビ制作者フォーラム 国際シンポジウム「東アジアとメディアの新たな可能性」	北海道大学メディア・コミュニケーション研究院附属 東アジアメディア研究センター	北海道大学 メディア・コミュニケーション研究院
10/16(日)	健康を創る最先端技術と健康マネジメント	北海道大学保健科学研究所	さっぽろバイオクラスター「Bio-S」
10/19(水)～27(木)	ラジオ放送AIR-G「はてな?サステナ」	北海道大学	
10/21(金)～22(土)	学生企画 世界環境学生会議 in 北大	世界環境学生会議北大2011学生実行委員会	北海道大学 サステイナビリティ教育研究センター (CENSUS)
10/22(土)	特別講演会「がんの放射線治療の歴史と最先端技術」	最先端研究開発支援プログラム(FIRST)	北海道大学総合博物館
10/22(土)	現代社会におけるリスク分散のあり方と環境教育	北海道大学 サステイナビリティ教育研究センター (CENSUS)	秋田大学、文部科学省
10/22(土)・23(日)	GMどうみん議会	GMどうみん議会実行委員会	北海道大学農学研究所
10/22(土)	第8回プレゼン・ディベート大会 札幌市の交通デザイン	北海道大学経済学部	
10/23(日)	シンポジウム「被災地の復興と人材育成ー持続的社会的構築のための社会起業の可能性」	北海道大学 サステイナビリティ教育研究センター (CENSUS)	
10/24(月)	オープニング・セレモニー 未来へ向けた一歩	北海道大学	
10/24(月)～11/6(日)	学生企画 ベロタクシーDEおしゃべり&ECO2011	北海道大学環境科学研究所FES-GCOEプログラム 環境教育交流推進室	北海道グリーン購入ネットワーク、 特定非営利活動法人エコモビリティ・サポロ
10/25(火)～11/7(月)	第3回学生研究ポスターコンテスト	北海道大学	
10/26(水)	サステイナブルキャンパス国際シンポジウム2011	北海道大学サステイナブルキャンパス推進本部	
10/26(水)	現代社会の呪縛構造ー社会環境・生活習慣に潜む病根ー	北海道環境健康科学研究教育センター	北海道大学教育学研究所、 北海道大学保健科学研究所、北海道大学医学研究科
10/26(水)	JSPS東アジア若手研究者招聘セミナー「口腔科学を通じた持続可能な国際交流」	北海道大学歯学研究科	日本学術振興会 (JSPS)、 北海道大学歯学部歯科矯正学教室同門会
10/26(水)～11/5(土)	学生企画 第6回フェアトレードフェア	国際協力学生団体「結-yui」	
10/27(木)	「サステイナブルキャンパス基本計画・行動計画」「総合評価システム」エキスパート会議	北海道大学サステイナブルキャンパス推進本部	
10/27(木)	社会格差への教育の挑戦	北海道大学教育学研究所	ソウル大学校、公州大学校
10/27(木)・28(金)	日本セラミド研究会第4回学術集会	日本セラミド研究会	北海道大学先端生命科学研究所、 知的クラスター事業サポロ-Bio-S
10/28(金)	北海道・フィンランド デイズ オープニングセッションー持続可能な連携のためにー	フィンランドセンター北海道事務所	北海道大学
10/28(金)	国際シンポジウム「アフリカ・サハラにおける衛生問題に対する挑戦」 ー持続可能な水と衛生に関する第2回AMERI-EAURワークショップ/第8回持続可能な衛生に関する国際会議ー	北海道大学工学研究科	JST、JICA、2IE、 ブルキナファソ政府農業省
10/29(土)	国際シンポジウム「ワーク・ライフ・バランス:持続可能な幸福の追求」	北海道大学文学研究科 応用倫理研究教育センター	
10/29(土)・30(日)	地域医療フォーラム	北海道地域医療研究会	北海道大学医学研究科 医療統計・医療システム学分野
10/30(日)	GIFT2011 持続可能な世界へ 12のメッセージーGlobal Issues Forum for Tomorrowー	北海道大学	
10/30(日)	学生企画 キャンドライズ2011	SCSD (The Students Council for Sustainable Development in Hokkaido University)	
10/30(日)	Greener! ならう! 持続可能な北海道のためにーグリーン購入促進に向けた展示及びパネルディスカッションー	北海道グリーン購入ネットワーク	北海道大学文学研究科社会心理学研究室
10/31(月)	留学希望者向けセミナー:SD on Campus	北海道大学国際本部	
10/31(月)	北方圏の環境教育に関するシンポジウム	フィンランドセンター北海道事務所	北海道大学低温科学研究所
10/31(月)	ジョイント公開講演会:持続可能な都市システムの構築を目指して	北海道大学工学研究科北方圏環境政策工学部門・ 環境フィールド工学部門	東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際センター
11/1(火)	国際シンポジウム「北方のツーリズムと景観」	フィンランドセンター北海道事務所	北海道大学アイヌ・先住民研究センター、 北海道大学観光学高等研究センター
11/2(水)	国際シンポジウム「先住民族と教育」	フィンランドセンター北海道事務所	北海道大学アイヌ・先住民研究センター
11/2(水)	産学官セミナー 地理空間情報が拓く未来 III	北海道大学文学研究科	国土交通省国土地理院北海道地方測量部、GIS学会 北海道地方事務局、北海道GIS・GPS研究会、 NPO法人Digital北海道研究会
11/2(水)～4(金)	遊ぶ・学ぶ・働くー持続可能な発展の支那のためにー	北海道大学教育学研究科附属 子ども発達臨床研究センター	
11/2(水)～6(日)	学生企画 CLARK THATER 2011	北大映画館プロジェクト実行委員会2011	
11/3(木)	ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ:あの日からの復興ー保健科学の視点からー	北海道大学保健科学研究所	
11/3(木)	環境・エネルギーシンポジウムー震災復興、自然エネルギー、北海道の力ー	北海道大学公共政策学連携研究部、 北大低炭素社会づくりプロジェクトチーム	環境省北海道地方環境事務所
11/4(金)	健康な高齢社会の構築と持続可能な発展	北海道大学医学研究科	北海道大学工学研究科
11/4(金)	ドキュメンタリー映画「タイガからのメッセージ」特別試写会in札幌	(財)地球・人間環境フォーラム	北海道大学低温科学研究所
11/4(金)	グリーン回路とシステムに関する国際ワークショップ	北海道大学情報科学研究科GCOEプログラム 「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」	
11/5(土)・6(日)	第2回アムール・オホーツクコンソーシアム国際会合	北海道大学低温科学研究所、北海道大学スラブ研究センター、 北見工業大学エネルギー研究センター、 総合地球環境学研究所	北海道大学GCOEプログラム「世界研究の 拠点形成」、国土交通省北海道開発局、道総研 環境科学研究センター、北海道農業環境保全対策本部
11/5(土)	全球降域プロジェクト (GLP) オープン・ワークショップ:アジアの降域システムの脆弱性、回復力、持続性	全球降域プロジェクト (GLP) 札幌拠点オフィス	トリバウン大学、北海道大学環境科学 IFES-GCOE国際プロジェクト推進室
11/5(土)	第15回アイヌ語弁論大会 イタカン ローーアイヌ語で話しましょう!ー	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	北海道大学アイヌ・先住民研究センター
11/5(土)・6(日)	学生企画 ノーベル化学賞受賞記念プログラム 北大ショートフィルム第3弾上映会&鈴木卓先生トークショー	北大ショートフィルム製作委員会	北大映画館プロジェクト実行委員会2011
11/6(日)	パブリック・フォーラム:ヒマラヤからみた温暖化ー氷河の変動と災害	北海道大学地球環境科学研究所	トリバウン大学、GLP札幌拠点オフィス、北海道大学 環境科学研究所IFES-GCOE国際プロジェクト推進室
11/6(日)	学生企画 サステイナブルキャンパスコンテスト	SCSD (The Students Council for Sustainable Development in Hokkaido University)	
12/3(土)	「痛っ」のサイエンス	北海道大学歯学研究科	
12/3(土)	学生企画 薪・カフェ	一般社団法人プロジェクト・デザインセンター	北大低炭素社会づくりプロジェクトチーム



札幌サステナビリティ宣言にもとづき
北海道大学は持続可能な社会を実現する
原動力になります。

サステナ ポータル サイト

“HUISD”

Hokkaido University Initiative for
Sustainable Development

北海道大学が率先する
サステナビリティ

教育

研究

経営

活動へ

ここからアクセスできます

<http://www.sustain.hokudai.ac.jp/huisd/jp/>



サステナビリティ・ウィーク 事務局 北海道大学 国際本部内

〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西8丁目 電話:011-706-8031 FAX:011-706-8036 E-mail: office1@sustain.hokudai.ac.jp

■ 詳しい情報はウェブサイトで公開しています。

<http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/>

作成日：平成 29 年 3 月

作成者：北海道大学サステナビリティ・ウィーク事務局

〒060-0815 北海道札幌市北区北 15 条西 8 丁目

TEL 011-706-8031／ E メール contact@oia.hokudai.ac.jp

北海道大学国際部国際企画課

〒060-0815 北海道札幌市北区北 15 条西 8 丁目

E メール planning@oia.hokudai.ac.jp
